

提案主題 安全で安心な学校教育環境の整備における教頭の役割

協議の柱 保護者や地域から信頼される安全で安心な学校づくりにおける教頭の役割

提言者 日田市立北部中学校 梶原英幸

1 質 疑

- (1) Q 緊急時の配信メールについて、日田市は市全体として学校に整備されているのか。
A 防犯面でのスピーディーな緊急連絡、また学校情報発信の手段として整備済み。
- (2) Q 被災経験のある学校として、実際の災害を想定(想像)した訓練の工夫があるのか。
A 被災時は電話が30分で不通となった。緊急電話の確認や災害状況を忘れないためにも、前任の教頭との引き継ぎが重要。状況をより具体化した訓練を今後実施する。
- (3) Q 校内防災担当委員会(体制)の設置、また詳細な割り振りはなされているのか。
A 防災責任者は教頭。主任を中心とした主たる担当割はあるが、細部は見直しが必要。

2 協 議

- (1) 組織的な対応および連携協力的対応の現状と課題
 - ・防災・生徒指導を含め、中学に比べて小学校では初動の段階で一部の教員で動いてしまうことがある。また、管理職と教職員とでは、危機管理の意識の差が感じられる。
 - ・災害が夜間に発生したとき、また学校が避難所になったときの教職員の動きや対応についても、マニュアルに具体的に位置付けておく必要があるのではないか。
- (2) 防災訓練について
 - ・より実際に想定した訓練、また地域や行政と連携した防災訓練が求められている。また連絡網についても、4月の早い時期に整備するための作成時期の見直しが必要である。
- (3) 防災意識を高めていくために
 - ・定期的に訓練を繰り返し行うことが大切。また身近な危機管理を含めて、記録を確実に残しておくこと。またそのことを検証する中で、組織の機能の在り方や課題を焦点化し、自校に合った適切なマニュアルを見直し・整備しておく必要がある。

3 指導助言

- (1) 体験や記録による「学び」を継続し、見直しを図ることは重要である。また過去の被災を伝えるだけでなく、支えるボランティアについても学ばせているところは適切である。
- (2) 管理職のリーダーシップに加えて、ミドルリーダーの手腕が今後求められる。OJTを通して経験を伝えて助言し、若い先生方を育成していく大切さを改めて確認できた。
- (3) いつ誰が何を対応するかを、平常時から保護者・地域と連携確認して取り組んでいる。
- (4) 防災についても、主体的・想像的に取り組む必要がある。子どもたちに、「その場で考え動く」ことができる行動力を身につけさせる指導が大切である。
- (5) 自助・共助・公助を意識した取り組み、その中で支援の心を育てていって欲しい。